

# 宝塚少女歌劇、 はじまりの夢

小竹哲 著

定価：1,980 円(10%税込)  
 体裁：四六判ソフトカバー／256 ページ  
 発行：集英社インターナショナル 発売：集英社  
 ISBN：978-4-7976-7424-8

3 月 24 日(金)発売！



雑誌「歌劇」から大正時代の宝塚少女歌劇が、  
生き生きと蘇る！

温泉場の余興が  
100 年以上続く歌劇に！

宝塚歌劇の第 1 回公演が行われたのは、大正 3 年(1914)のこと。

本書は、大正 7 年に創刊され、いまでも刊行されている雑誌「歌劇」に投稿された読者や文筆家の率直な声、そして舞台に立っていた「生徒」たちの初々しい言葉を丹念に読み取り、創生期ならではの宝塚少女歌劇の熱気と、大正という時代の息吹を生き生きと蘇らせている。

当時の絵葉書やプログラムも掲載し、宝塚歌劇ファンも、そうでない人も興味深く楽しめる内容。少女たちが演じる温泉場の余興はいかにして大人気を博し、100 年以上愛される魅力を得たのか。

大正時代の生徒、ファン、小林一三、作家たちの肉声が踊る！

## 著者所蔵の絵葉書、多数掲載！



▲宝塚音楽歌劇学校の英語の授業

### 【目次より】

- 第1章 パラダイス劇場と公会堂劇場
- 第2章 組の誕生とファンさまざま
- 第3章 作家と作品
- 第4章 音楽歌劇学校そして火事
- 第5章 松竹と少女歌劇いろいろ
- 第6章 高砂松子
- 第7章 生徒たちの日常
- 第8章 関東大震災と市村座
- 第9章 大劇場完成
- 第10章 小林一三

春日の弟については、大阪の北野中学校の生徒がこんな投稿をしている。彼自身は宝塚の舞台を観たことはなかったが、クラスメートが洋装した可愛らしい少女の絵葉書を見せてきて、

「君、此(この)エンゼルを知ってゐるかい」

「知らない」

「これは君、倉田の姉サンだよ。宝塚の春日花子を君は知らないのかい」

倉田君は優秀で温顔で勇気のある青年だった。高等商業学校に一発合格して皆に尊敬されていた。

(第7章 生徒たちの日常 より)

## 赤江珠緒さん(フリーアナウンサー)推薦！

時空を超えて100年前のタカラヅカの折々を浮かび上がらせた、著者の宝塚愛に脱帽！



### 【著者プロフィール】小竹哲 (こたけ さとし)

1964年、三重県四日市市生まれ。京都大学文学部卒。大阪の朝日放送で浪曲番組、アニメ番組、クラシックコンサートなどを担当し、2019年退職。昭和の「ベルばらブーム」以来の宝塚ファン。1983年春より大劇場公演はほぼ全公演観劇。宝塚歌劇に関する論考、公演評、エッセイの雑誌などへの寄稿多数。

◆本書につきまして書評や著者インタビュー、ゲスト出演などご検討いただけましたら幸いです。

【本書のお問い合わせ・取材申込先】

集英社インターナショナル 出版部

電話 03-5211-2632 <https://shueisha-int.co.jp/>